



from IUPS

国際生理科学連合第36回世界大会 (IUPS2009) 開催へ向けて

国際生理科学連合第36回世界大会
財務担当・副会長
東京慈恵会医科大学生理学講座第2

栗原 敏

国際生理科学連合第36回世界大会 (IUPS2009) の開催へ向けて、組織委員会が編成され、宮下保司大会長のもとで準備が進められています。日本生理学雑誌第68巻4号のVisionに宮下大会長が組織委員会の体制について書かれていますが、総務担当、プログラム担当、そして財務担当の3名の副会長を中心に各委員会が設置されています。

私は財務担当副会長を命ぜられました。私に課せられた任務は、IUPS2009の財政基盤を作り、財務・募金委員会とトラベル委員会を統括して運営し、IUPS2009が健全に開催できるよう努力することだと認識しています。これまでの国際生理科学連合世界大会や、日本で開催された他の国際学会を参考にして、宮下大会長、岡田、倉智両副会長とともに予算案を考えてまいりました。日本生理学会は前回のIUPS開催(1964年)以来、このような大きな国際学会の開催経験がないので、国内外からどれくらいの参加者が集まるのか、予算規模はどれ位になり、寄付などはどの程度見込めるのかなど不確定要素が大きい中で、できるだけ確実な予算を立てるといふ会長の意思を尊重して予算案を考えております。

私たちは、IUPS2009が参加者に満足してもら

えるプログラムであるとともに、日本文化にも十分に触れる機会をもうけて、参加者の満足度がより高い大会となることも考慮し、資金計画を立てています。IUPS2009は、最先端の研究成果を発表・討論し、日本の生理学者が世界の研究者と学術交流をすることによって、日本の生理科学研究と教育の発展を目指して開催されます。その目的を考えると、まず、日本生理学会員の自助努力が求められます。その上で、不足する資金を外部から調達するということになります。多くの国際学会の予算を調べて見ますと、参加登録費と大会を主催する学会の自己資金で、予算の60%ほどの資金を用意することが普通ようです。その上で、財団、企業などに協力を仰ぐことになります。

財務には透明性が求められます。日本生理学会の有限責任中間法人化に伴い、IUPS2009大会はこの中間法人の下に人格なき社団として位置づけられ、会計管理が税理士によって行われることとなります。また、監事の監査があり、健全な会計管理が行われますので、会員の皆様にはその点もご理解いただき、安心して支援資金などへご協力くださいようお願い申し上げます。